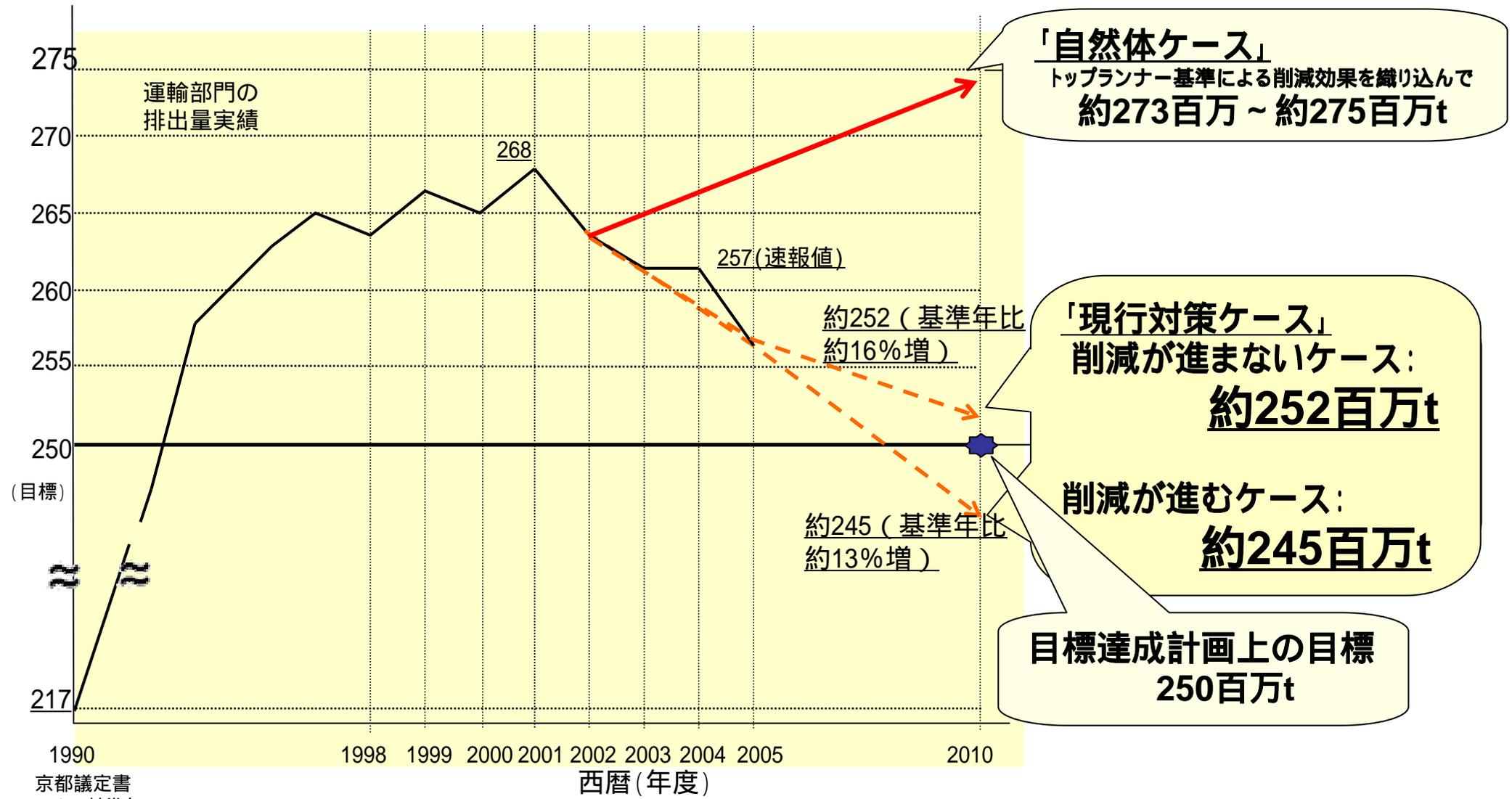


運輸部門の全CO2排出量の見通し(暫定評価)(案)

CO2排出量(百万t)



注) 国土交通省の推計によるもので、今後、新しいデータや資料等により変更があり得る。

運輸部門の2010年度の全CO2排出量の推計について

現在進められている目標達成計画上の対策・施策について、2010年度における運輸部門からの全CO2排出量を国土交通省において推計

注) この推計は、今後の新しいデータや資料等により変更があり得る

(1)「自然体ケース」のCO2排出量の推計

- ▶自然体ケース算出の方法としては、各輸送機関の排出原単位に2010年の輸送量予測値(旅客:人キロ、貨物:トンキロ)をかけたものを集計
- ▶排出原単位については、自家用乗用車、トラック以外については、2001年度の実績値を採用
- ▶自家用乗用車及びトラックについては、理論燃費と人キロ/トンキロあたりの排出原単位間の乖離トレンドが2010年まで続くと考えて排出原単位を設定。なお、理論燃費については、トップランナー基準及びグリーン税制等による理論燃費の改善を反映させている。これにより、トップランナー基準による自動車燃費対策については、自然体ケースにこれを織り込んでいる。トップランナー基準等による燃費改善の2010年度の削減効果については、今回の評価結果を利用。
- ▶輸送量については、バス及びタクシー以外は、交通需要推計検討資料(平成14年11月・国土交通省道路局)、運輸政策審議会答申第20号(平成12年10月)を用いて設定。
- ▶バス及びタクシーについては、2001年度の実績値を採用。

(2)「現行対策ケース」のCO2排出量の推計

- ▶「現行対策ケース」の排出量は、「自然体ケース」の排出量から、現行の各対策・施策による2010年度の全CO2削減量(2002年度を起点とした)の合計を差し引いて推計
- ▶「削減が進むケース」と「削減が進まないケース」の2ケースを推計

「削減が進むケース」: 現行の対策・施策による削減量を計上。ただし、高位値を推計した対策・施策については、この高位値を計上。

「削減が進まないケース」: 現行の対策・施策による削減量を計上。ただし、低位値を推計した対策・施策については、この低位値を計上。ただし、次の対策・施策については、最近の対策の進捗と削減効果を評価できていないため、削減量の一部又は全部を計上していない。

一部: 公共交通機関の利用促進

全部: 国際貨物の陸上輸送距離の削減